



「うっ！ぐっ！ひうっ！……
かっ、からだ…がっ…
いう」とを…うううっ！」
「こんな極上のキツマンを
好き放題出来るなんて最高やっ
ふんっ！ふんっ！ふんっ！」
「令呪に抗おうなんて無駄な事だ
この俺に偉そうな態度をとった罰として
そのオッサンの慰みモノになるんだなw」
「ぎっ、さまっ、わっ、妾を
誰だどっ、うっぐっ、うううっ！」

！！！！

！！！！

スキ

スキ

！！！！



「あつ！はっ！うああつ！
きつ、貴様…っ、妾に…っ
なっ、何をした…っ！」

「なに、只お前の感度を
数百倍に増幅させただけだよw」

「そっ、そんな事のためにっ、
れ、令呪を…っ、なんと…愚かな…っ！」

「ふん、まあ精々俺を愉しませてくれ
オッサン頼んだぞ」

「よ、よくわからんがこんな上玉
何回でもイけるわっ、ふんっ、ふんっ！」

「あああああああつっ！」

ほ

あ

あ

きん

きん

あ

あ



「うっ、ぐっ、ううっ！
ぜ…全然抵抗出来ない…っ
あ…あなたっ、こんなことの為に
令呪を…っ！」

「ママが抵抗するから…っ
僕は…こんなにママが好きなのに…っ」

「んっ、くっ、んんっ…
も、もう好きに…すれば…っ
いいじゃない…っ、これくらっ…
あ…っ、あたしは…っ！」

「はあっ、はあっ、やさしいママ
しゅきいっ…ふんっふんっふんっ…」

ズッ！

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ



「…あ…は…あ…
はあ…はあ…」

「はあ…はあ…
膣内最高だったよ…」

「…それはよかったわね…
そろそろ…離してくれど…
…ありがたいのだけれど…」

「駄目だよ…
僕はママにも気持ちよく
なつてほしいんだ…」

「…あなた…何を…」

ほろ

ほろ

M

M

M

M



「っっ、はっ、あうっ……
おか……さん……っ、んっ……」

「ジャックちゃんはいいい子だねえw
どう？おか……さんのチンポは
気持ちいいかな？」

「わ……かない……けっ……
なんだか……声が……出ちゃ……っ……っ……」

「ぐっっw素直だなあ
我慢しないでもっつと声出して
いいんだよっ、ほっっほっっ……」

「……っ……っ……」

ON!

ON!

ON!

ON!

ON!



「あっ…うっ…ああっ…
お…か…さ…ん…うっっ…」

「くっくっWジャックちゃんの
気持ちいい声が溢れちゃってるよっ…
おか…さんのチンポそんなに
気持ちいいのかな？」

「う…ん…っ…おか…さんの…っ
ちんぽ…っ、気持ちいいよ…っ…」

「素直ない子はもつと
気持ち良くしてあげるね…っ
ぬっ…ふんっ…」

「~~~~~」

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ



「うっ、くっ、射精るっ
射精るよジャックちゃんっ」

「うっ、んっ、ちよーだいっ
おかーさんの熱いのっ、うっ、うっ、うっ」

「うっ、あっ、あああっ
きっ、たっ、どくどくっ、うっ、うっ、うっ
これっ、すきっ、あっ、はっ、あああっ」

あっ、あっ、あっ

うっ、うっ、うっ

うっ、うっ、うっ

うっ

うっ

うっ

うっ

うっ

うっ



「あ……あ……は……あ……つ
あ……おなか……あ……熱……つ……」

「はあつはあつはあつ……
ふう……つ、良かったよジャンヌ……」

「よ……よかったのは……
トナカイさんだけです……つ
私はとってもつらかったんですよ……つ」

「……「ごめん……つ
そんなにつらかったなんて……つ
ど……どうしたら……つ
そ……そうだ……つ……」

「……?……」

NA

NA

NA

ほ

ほ

NA

ほ



「あつ…はつ…あ…あつ…
ば…ばかです…
トナカイさんはつ、おばかさんです…」

「ごめんっ…こうすればジャンヌも
気持ち良くなれると思って…」

「ごんなつ、事のために…
また令呪を…
信じられな…あつ…」

「一緒に気持ち良くなるらっ…
ジャンヌっ…うっ…くうらっ…」

「あああああつ…」

あつあつ

ほ

あ

あ

あ

あ



「あ……あ……はっ……
あ……はあ……はあ……」

「ふう……
しかしいいんですかい旦那？
これ以上はマジでぶっ壊れますぜ」

「かまわねえさ
俺はコイツが音をあげて
屈服するところが見たい
だけだからな
そうなたらそうなたで
面白そうだw」

「そっついっつなら
遠慮なく……」

「はっ……」

「はっ……」

「はっ……」

「はっ……」

「はっ……」

「はっ……」



「ふんっふんっふんっ！
ぬっぐっ、ぬっぐんぬんぬんっ！」

「はっ、あつ、うあっ！
がっ、ああつ、ああつ！」

「ほれほれっ、まだまだ
射精るからしっかり
受け止めるよっ！」

「あつ……あつ……あつ……
がっ……あつ……あああああつ……
はっ

「くっくっいい反応しやがるっw
これならまだまだ愉しめそうだw」

はっ

はっ

はっ

はっ

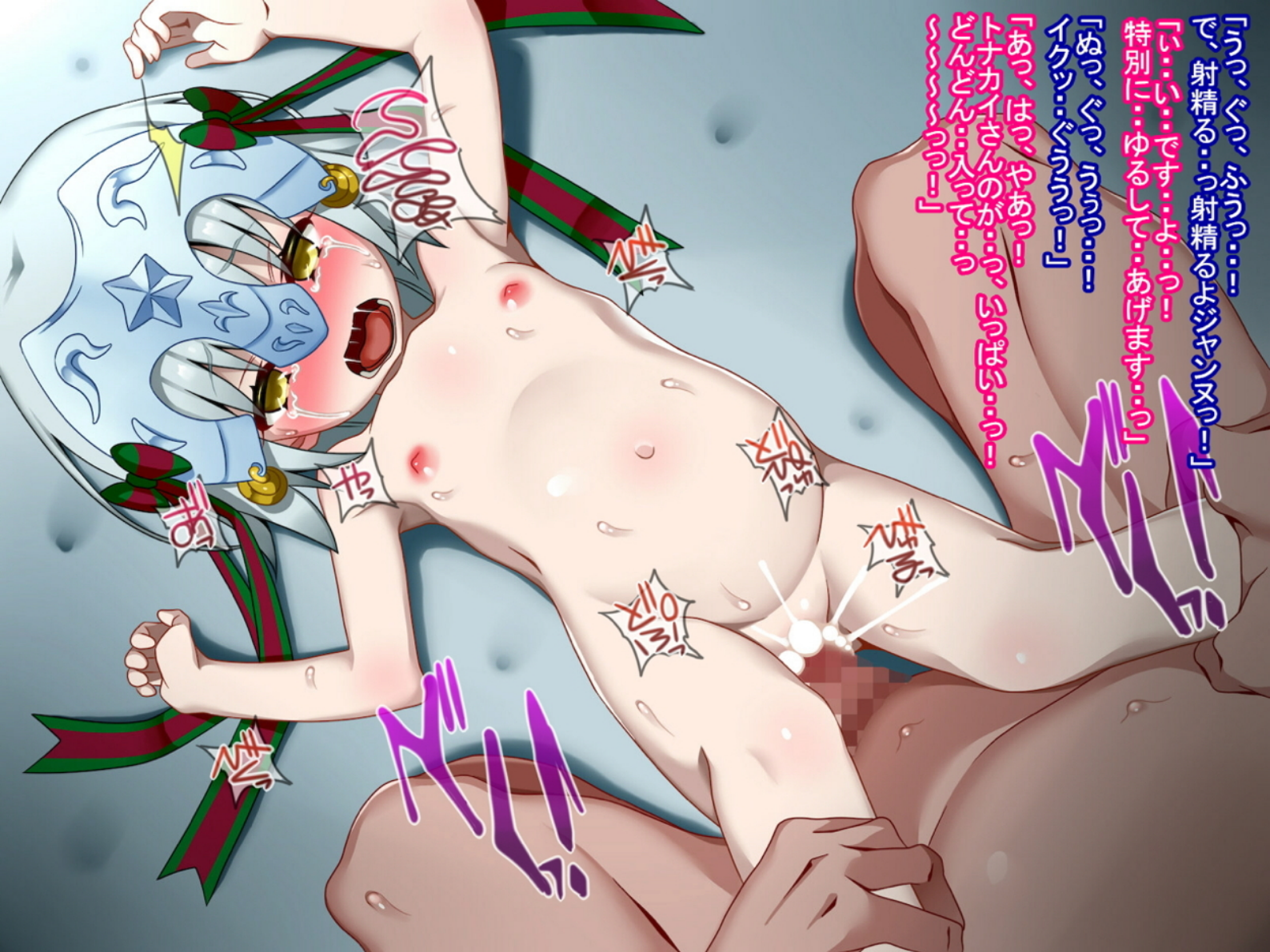
はっ



「あつ、はつ、あつ……！
と……ナカイ……さん……
はげ……し……！……」
「めん……っ、ジャンヌ……っ
腰……止まらな……う……っ……」
「っ、あつ、ん……っ……
仕方のない……ひと……っ
です……ね……っ……あああ……」

!!!

!!!



「うっ、ぐっ、ぐっ……
で、射精る……射精るよ……」
「い……い……です……よ……」
特別「……ゆるして……あげます……」
「ぬっ、ぐっ、ぐっ……
イク……」
「あっ、はっ、やあっ……
トナカイさんが……いっばい……
どんだん……入って……
……」

M

M

M

M

M

M

M

M

M



「はあっ…はあっ…はあっ…はあっ…
うっ…ぶっ…うっ」

「あ…は…あ…あ…あ…あ…
はあっ…はあっ…だ…
出しすぎ…です…っ…」

「んっ…んっ…んっ…んっ…」

「…ほんとうに…えっちな
トナカイさんです…っ…
そんなに焦らなくても…
私なら…っ」

「…んっ…んっ…んっ…んっ…」
「…あ…っ♡」

